

戦争の 爪痕を歩く

八王子市内にはいまでも数多くの戦争遺跡が残されています。それらは時代を超えて私たちに戦争の惨禍を伝えてくれます。身近な場所で起きた悲劇を見つめ、平和の意味を問い直してみましょう（遺跡はどれも歴史的な財産です。また私有地に残されたものもあります。マナーを守って歩くようにしましょう）。



●大和田橋
大和田町

約300ヶ所の焼夷弾跡が残されていたが、1997年の補修工事で歩道上17ヶ所が残された。透明板で覆った焼夷弾跡と弾痕を示した色違いのタイルがある。

イ 大和田橋



●南多摩高校
明神町4-20-1

ロ クスノキ

空襲で焦土と化した南多摩高校の校庭で翌年春、クスノキだけが若葉を芽吹かせた。勇気づけられた教員や生徒らが校舎復興に全力を注いだ。2010年に記念碑建立。



●甲州街道
追分〜西八王子駅入口

甲州街道の追分から西八王子駅入口までの間に幹のひどく傷んだイチョウが数十本ある。空襲で焼けて傷んだ跡で、現在は発泡ウレタンで手当てされている。

ハ イチョウ並木



●相即寺
泉町1132

7月8日の空襲で亡くなった神尾明治君の母親が相即寺の地藏堂の中から息子の顔に一番似ている地藏にランドセルをかけた（表紙写真）。寺の門には銃弾の貫通した穴あり。

ニ ランドセル地藏



●東照寺
長房町1267

陸軍将校養成のため1944年に移転開校。空襲でほぼ全焼。1987年、犠牲者の供養のため観音像が職員生徒有志により建立。「建武台の碑」「放鯉記念碑」も。

ホ 陸軍幼年学校

